

概要版(一宮市図書館サービスの課題)

1. 計画策定の趣旨

【目的】
◇ 中央図書館のあるべき図書館像、役割、機能、サービス、規模、事業方策等の具体的検討を行う

【背景】
◇ 図書館に生涯学習拠点としての役割が期待されており、従来の図書館サービスの提供に加え、新たな地域・市民ニーズへの対応が必要
◇ 一宮市立豊島図書館は、開館以来約40年間にわたり地域で親しまれてきたが、施設の老朽化や収容能力の不足等の問題を抱えており、図書館サービスの向上に向けた改善が必要
◇ 中心市街地活性化構想において、中央図書館などの公共施設と商業・業務など民間施設を複合化した新しい駅ビルの整備を検討中

2. 現況把握

【市町合併】 ◇ 一宮市・尾西市・木曽川町の2市1町合併により市域拡大

【産業】 ◇ 産業構造の変化 ◇ 郊外店舗の立地による中心市街地の疲弊

【人口構造・家族形態】 ◇ 少子・高齢化の進行 ◇ 核家族化の進展
◇ 外国人登録者数の増加 ◇ 旧市街地におけるマンション建設による新住民の流入

【観光資源】 ◇ セタまつり ◇ 山内一豊関連の史跡 ◇ 138タワーパーク

一宮市図書館サービスの現況と問題点

【サービス体制・内容】
◇ 6館及び移動図書館を運営
◇ 子ども文化広場は(財)一宮市地域文化広場管理公社が運営
◇ 豊島図書館が館長・事務局長を配置する他、移動図書館を運営
◇ 豊島・尾西・木曽川・庶務の4つのサービスグループを形成し、合併前の3地区ごとにサービスを展開
◇ 豊島・尾西・玉堂記念木曽川の3館のサービスが横並び
◇ 司書は臨時職員を含めて25名
◇ 異動の関係で、長期にわたり経験を積んだスタッフが不足
◇ 身体障害者に対してのみ無料の郵送サービスを実施
◇ 図書館行事・集会は子どもを主な対象としたものが多い
◇ サービス対応言語は日本語のみ
◇ 広域貸出を行っているのは稲沢市のみ

【市町合併後の対応】
◇ 中央館は豊島図書館 ◇ 図書館蔵書管理システムを統一
◇ 貸出カードを統一 ◇ 移動図書館のステーションを追加

【資料】
◇ 豊島+子ども文化広場、尾西+尾西児童で役割分担
◇ 豊島図書館にせんいコーナーを設置

【利用】
◇ 成人の登録率が低く、特に60歳以上の登録率が低い
◇ 児童図書、視聴覚資料の利用が多い(回転率が高い)

【施設・設備】
◇ 豊島(築40年)、尾西(築25年)、尾西児童(築26年)、地域文化広場(築26年)は老朽化
◇ 豊島・尾西では収容能力が限界
◇ 高度情報化に対応していない(各館にインターネット端末は1台ずつ)

関連施策

【国の施策】
◇ 多様化・高度化する生涯学習の支援拠点としての図書館 ◇ 情報化への対応(電子図書館)
◇ 子どもの読書活動の推進 ◇ 地域の情報拠点としての図書館(課題解決支援)

【県の施策】
◇ 生涯学習基盤の整備に向けた関連施設の拡充

【市の施策】
◇ 多種多様な生涯学習機会の充実 ◇ 国際理解のための学習機会の充実
◇ 生涯学習関連施設の機能拡大に向けた中央図書館の実現 ◇ 子どもの読書活動の推進

3. 中央図書館の取り組み課題

中心市街地活性化から求められる課題

中心市街地活性化の方策として、人々が生活する上でのサービスの集積・提供を図ることが必要であり、そのサービスの集積・提供の一端として『図書館など公共機能の充実』が必要である

現時点での図書館サービスの課題

市域全体のネットワークの充実が必要

● 市域全体として一元的なサービスの展開が必要
● 中央図書館を中心としたネットワークの形成が必要
● 中央図書館整備にあわせ、他館の機能、蔵書構成、サービスの見直しが必要
● 他の図書館や学校、関連施設との連携を充実

市民の多様な学習ニーズへの対応の充実が必要

● 中央館としての高度で専門的なサービスの充実が必要
● 資料収集と蔵書構成の充実が必要
● 高度情報化への対応を図る
● 国際化への対応、国際理解に向けた機会の充実を図る
● 高齢者の図書館利用を促進するような施策が必要
● 若年層の読書活動の推進に向けた施策が必要
● 図書館に来館出来ない市民への対応の充実
● 市民の多様なニーズに対応できるスタッフが必要(IT、ビジネス、福祉、多言語等)
● 多くの市民が利用しやすい開館日・開館時間帯の設定が必要
● 施設・設備の充実が必要

地域におけるふれ合い、情報収集の場としての取り組みが必要

● 余暇を楽しむふれ合いの場としての取り組みの充実
● 少子高齢化、産業構造の変化、中心市街地の疲弊といった地域課題の解決に向けた情報提供の充実
● せんいコーナーの設置以外のまちの活性化に向けた施策が必要

各種団体ヒヤリング結果

● 中央図書館の整備を機に、中央館と地域館との役割分担についての検討が必要
● 駅ビル立地という特性を活かし、通勤・通学者層を対象としたサービスの提供が必要
● 中央図書館として全市民に利用しやすい施設とすることが必要

市民ニーズ(市民・利用者アンケート結果)

アンケート調査概要

■ 利用者アンケート(4館)：有効回答総数2,017票(有効回答率80.7%) ■ 市民 アンケート：有効回答総数968票(有効回答率32.3%)

アンケート結果

● 過去1年間に図書館を利用したことがあるとの回答が全体の61.1%(市民)

● 図書館利用の目的としては、本の貸出、返却が最も多く(利用者：64.3%、市民：70.2%)、1回あたりの滞在時間も1時間以内との回答が圧倒的に多い(利用者：54.4%、市民61.6%)。しかし、中央図書館に対しては、「余暇を楽しむことができる。目的がなくても立ち寄れる。」ことを望む回答が多く(利用者36.4%、市民61.3%)、滞在型の図書館への要望があることが分かる。

● 図書・雑誌・AV資料の量や種類に満足していないとの回答が31.9%(利用者)あり、特に19歳～50歳、移動図書館利用者からの不満が多いことから、それらの利用者ニーズへの対応が必要である。中央図書館に充実を望む資料としては、趣味・娯楽書が最も多く、次いで文学書・専門書となっている。

● 開館日・開館時間帯に満足していないとの回答が27.8%(利用者)で、特に学生・会社員の利用者、豊島図書館・地域文化広場の利用者からの不満が多いことから、多くの市民が利用しやすい開館日・開館時間帯について検討の必要がある。

中央図書館の基本方針

【基本コンセプト】
知をつむぐ 学びふれあい憩いの場
市民や地域の知的・創造活動を支える
参加型図書館を目指して

【基本方針】
図書館ネットワークの中核拠点としての機能充実を図る
市内図書館の中核としてネットワークを形成し、市内全域における一元的かつ効率的なサービスの展開を図る。
市民生活やまちの課題解決に資する、高度で専門的なサービスを提供する
時代や社会の変化に対応し、より高度で専門的なサービスを提供することで、全市民の多様なニーズへの対応を図る。
にぎわい・ふれあいの場として交流・情報機能を充実する
駅ビル立地という特性を活かし、市民の交流・ふれ合いの場、中心市街地における情報提供・交換の場の形成を図る。

駅前立地における図書館

【尾張一宮駅の特性】
● 市内で最多の駅利用者数
● 市内で最大の商業集積地
● 一宮市役所等の公共公益機能が集積
● 尾張の一の宮である真清田神社の最寄り駅

【既往の駅前図書館における特徴的なサービス】
● ビジネス支援サービス
● 多言語サービス
● 郷土の産業・企業に関する資料の提供
● 貸出用ノートパソコン110台(インターネット、DVD閲覧用)
● オンラインデータベースの無料提供
● 雑誌タイトル数400誌以上の提供

4. 基本方針

【基本コンセプト】

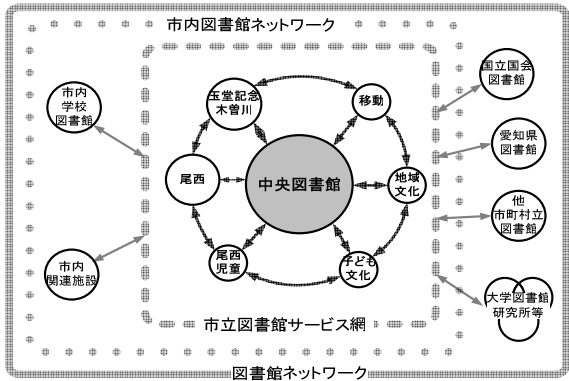
知をつむぐ 学びふれあい憩いの場

市民や地域の知的・創造活動を支える
参加型図書館を目指して

【基本方針】

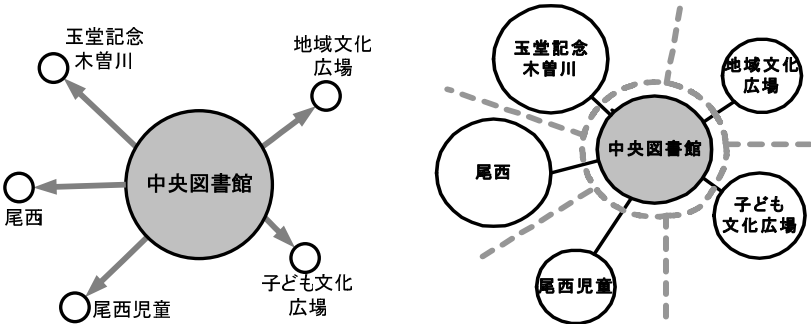
図書館ネットワークの中核拠点としての機能充実を図る

- 中央図書館を中心としたネットワークを確立
- 市内図書館施策の中心としてサービス網を効率的に運営・管理
- 学校図書館、市内関連施設、市外公立図書館等に対する窓口を一元化

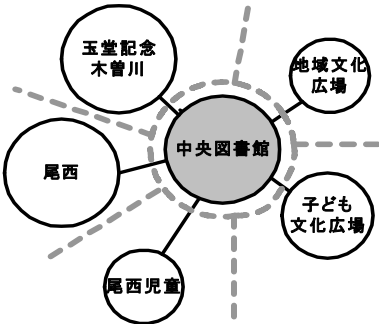


市民生活やまちの課題解決に資する、高度で専門的なサービスを提供する

- 社会の変化、市民のニーズに対応した多様な資料の収集・保存・提供
- 生涯学習拠点として市民の学習意欲の啓発を図る
(資料・情報の提供・利用支援、講座・講演会の行事の開催)
- 中央館としての高度かつ専門的なサービスの充実
(多文化サービス・ビジネス支援サービス等)



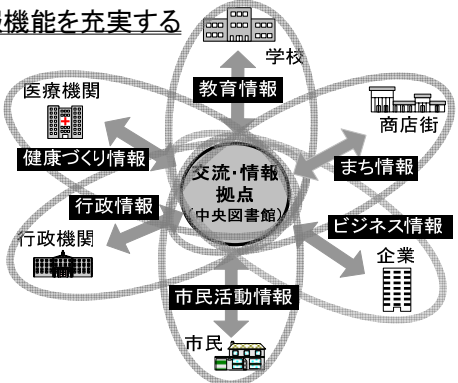
地域館のサポートのイメージ(中央館としての役割)



地域サービスのイメージ(地域館としての役割)

にぎわい・ふれあいの場として交流・情報機能を充実する

- 市民の交流の場・ふれあいの場として地域文化の維持・創出に貢献
- 充実した地域情報の提供(観光・行政・企業・商店街関連情報等)
- 地域の抱える課題の解決に向けた情報の提供(医療・健康、繊維関係資料等)



5. 図書館サービス計画の検討

基本サービス

資料・情報提供サービスの充実

閲覧・貸出サービス

- 複本の購入、他の公立図書館からの借用等による資料の充実
- AV資料の充実、試視聴のための設備・スペースの提供

レファレンスサービス(調べもの支援)

- カウンターだけでなく、電話、FAX、電子メールによる調べもの相談
- セルフレファレンスに役立つ情報源の充実
- 専門性の高い司書(子ども、ビジネス等)の配置
- 自館資料で対応出来ない場合は他機関、専門家へ照会

利用対象別サービスの充実

幼児・児童サービス

- 地域サービスの充実とともに、地域館への支援サービスを充実する
- 子どもの読書活動推進
- 子ども向けHPの提供
- ボランティアとの連携・協力拠点
- 外国籍児童、障害児用資料の充実

ヤングアダルトサービス

- 安全な居場所、コミュニケーションの場を提供する
- 個人・グループ学習支援
- ヤングアダルト対象プログラム(集会・行事・催事)
- 進路・職業選択関連資料の充実

成人サービス

- 地域における情報拠点として市民生活関連情報の提供を行う
- 教育関連資料・情報
- 子育て支援
- 福祉・健康関連資料・情報
- 法律関連資料・情報

シニアサービス

- 地域サービスと、地域館への支援サービスを充実する
- 大活字本・録音図書等の提供
- 余暇活動に役立つような資料の提供、講座・講演会の実施
- シニアボランティアとしての活動を支援
- 医療情報(病院・介護等)提供

アウトリーチサービス(図書館に行けない方への支援)

- 移動図書館ルートの見直し
- 郵送サービスの拡大
- 病院・福祉施設等への貸出

地域資料・情報の提供

- 特徴的な地域資料(繊維関係・有隣舎関連)の提供
- 図書以外の情報(ポスター・リーフレット・記事等)の充実

ITサービス

- ホームページ情報の充実
- インターネット端末の充実
- 持込パソコン利用サービス
- IT講習会(一般、シニア、障害者)

障害者サービス

- 中央館としての専門的なサービス及び地域サービスを提供する
- 郵送サービスを在宅要生活支援者まで拡大
- 専門的スタッフの配置
- 音訳・点訳サービス、対面朗読サービス

多文化・国際化サービス

- 地域館では対応の難しい高度かつ専門的なサービスを提供する
- 外国語図書・新聞
- 日本語学習支援資料
- 多言語による利用案内
- 多文化理解・国際理解に資する資料の提供

学校支援サービス

- 中央館として、学校に対する支援窓口としての機能を持つ
- 学級招待・学級訪問
- 図書クラブ活動指導
- 図書館ボランティア体験
- 教員への教材作成支援

立地特性を活かしたサービス

市民活動支援サービス

- 市民の文化活動・ボランティア活動の場、活動のきっかけを提供する
- 市民活動支援センターとの連携
- 活動に関連する資料・情報の提供
- 活動場所の提供(会議室等の充実)
- 活動をアピールする展示会等を開催する場の提供(ギャラリーなど)

図書館ボランティア活動支援サービス

- 多様な市民に対して社会参加の場、交流の場を提供する
- ボランティアの養成(配架、読み聞かせ、対面朗読、シニア等)
- ボランティアからの相談等に対応可能なスタッフの配置
- ボランティア同士のネットワークの形成支援

ビジネス支援サービス

- まちの課題の解決、活性化に資するような資料・情報を提供する
- ビジネス関連資料(就職・起業・資格関連資料等)の充実
- 市の経済産業関連部局や商工会議所等の経済団体との連携
- ビジネス支援講座の場の提供
- 商用データベース導入・利用支援

賑わい支援サービス

- 中心市街地の活性化に資する情報提供・交換の場を提供する
- 商店街情報(イベント・店舗等)の提供
- 市域全体のイベントや行事に関する情報交換の場の提供
- HPにおいてまち情報に関連するサイトへのリンクを紹介
- 観光案内所と連携し、市内の歴史や文化等に関する情報を提供

蔵書冊数及び施設規模の目標設定

『これからの図書館像 平成18年4月5日文科科学省』の図書館サービスの指標の例に基づき、一宮の人口を380千人(平成18年9月1日現在)として数値目標を算出すると、中央図書館の規模は以下のように想定される。

市内図書館全体で備えるべき蔵書冊数	1,080千冊
うち、中央図書館で備えるべき蔵書冊数	約700千冊
中央図書館延床面積	約7,000㎡

図書館資料の収集計画

- 一宮市の特性及び、図書館サービスにおける中央館としての役割を考慮し、地域館からの要求に応えられる蔵書構成とする。
- 現在図書館を利用していない市民のニーズや、将来的なニーズにも応えられるような資料収集を行う。
- 地域資料を充実する。一宮の特色である繊維関係資料の収集・保存、有隣舎の貴重な資料などの保存を行うとともに、市民へ広く周知するためのデジタル化を図る。
- 図書資料以外の資料・情報の充実を図る
(AV資料・商店街のリーフレット・市民活動情報等)

※図内の数字はローテーションを考慮した職員の延人数を示す